

手を握らずに親と子



令和5年4月発行 登別市教育委員会・学校教育グループ「子育てコラム」 No. 20

コミュニケーションのために

あるテレビ番組の中で、不定期ですが、出川哲朗さんの「はじめてのおつかい」というコーナーがあることをご存じでしょうか。

英語はほぼ話せない出川哲朗さんが、アメリカの街角で「自由の女神まで行け」などのミッションを受け、でたらめな英語を駆使し、苦勞しながらもそのミッションをクリアする様が人気のコーナーです。

文法も発音もまるでデタラメな出川さんですが、単語と笑顔と勢いでなんとか目的を達成するその姿には、笑いの中にもコミュニケーションの基本があります。

私はかつて、中国の日本人学校に勤めていたことがあります。

私の勤めていた日本人学校では、定期的に現地の小学校との交流を行っていました。

あるときの現地の小学校との交流の際、日本人の小学生がずっと日本語で話しかけています。中国人の小学生は中国語で話しています。二人とも笑顔です。何が面白いのか二人同時に笑うこともあります。

またある日本人の小学生は、なにやらかけ声のような意味不明の声を出しながら、身振りで気持ちを伝えようとしています。すると中国人の小学生も同じように意味不明の声を出しながら何かを伝えてきます。やはり二人とも笑顔です。

お互いに言葉は全くわからないのにもかかわらず、それでも意思の疎通はできているのです。



当時の日本人の同僚に「『好(ハオ)』の魔術師」と異名をとる人がいました。(中国語の「好(ハオ)」は日本語の「好き」の意味ではなく、「良い」とか「すごい」等の意味があります。)

彼は中国語があまり話せませんでした、「好(ハオ)」の一言でほとんどの会話を成立させることができていました。

彼の「好(ハオ)」には数え切れないほどの意味が込められています。

あるときは「最近の調子はどうですか？」であり、あるときは「今度餃子の作り方を教えて欲しい」だったり、「もう食べられない」だったりします。

「李さん、ハオ？」(李さん、時間ある？)
「おー、ハオハオ」(おー、それはいいね)
「(食べる動作をしながら)ハオ？」(今日ご飯を食べに行かない？)
「うん、ハオハオ」(わかったよ)



彼の笑顔と話し方が、会話の相手に「一生懸命に聞いてあげよう。わかってあげよう。」と思わせるのです。そのことで、彼は「好(ハオ)」と相手の名前だけで 30 分の会話を可能にしていたのです。

以前、これもテレビ番組でワンポイント英会話のコーナーを持っていたスリランカ人の講演を聴いたことがあります。

彼の講演の中心は「言葉そのものに意味は無い」ということでした。もちろん言葉には意味があり、言葉の選び方は大切であることはもちろんですが、彼の話にもうなずける部分が多くありました。

彼は「バカ」という言葉を例にして、次のように話しました。

「バカ」という言葉には、相手を軽蔑して辱める意味があると皆さんは思っているでしょう？ しかし恋人同士で使う場合、「バカ」が「I LOVE YOU」の意味で使われることもあるのを理解することができますね？
言葉は使い方によって様々な意味になります。
言葉で気持ちが限定されるのではなく、気持ちが言葉の意味を作っていくのです。

外国語を例に、コミュニケーションの基本について考えてきました。

しかし外国語を使うときだけではなく、日常の私たちのコミュニケーションの際にも、同じことがいえるのではないのでしょうか。

◎伝えたいという強い思い。

◎笑顔。

◎とにかく話してみる。

黙ってしまうとコミュニケーションは成立しません。声に、表情に、気持ちを込めることで相手に伝わっていくのです。

親子の普段の何気ないやりとりでも、笑顔で話しかけたり、ふれあいを大事にしたりすることで、子どもの心身の成長に嬉しい効果をもたらしてくれますよ。